

CEL ホームページ

<http://www.og-cel.jp/>

エネルギー・文化研究所 (CEL) の活動内容や
情報誌「CEL」バックナンバーをご覧になれます。
※CEL ホームページに掲載する「読者アンケート」にご協力願います。

Facebook ページ

<https://www.facebook.com/osakagas.cel>

volume123
November 2019

特集
地域と時間をつなぐ
——「よそ者」の役割とは

2019(令和元)年11月1日発行

発行 大阪ガス(株)
エネルギー・文化研究所(CEL)
〒541-0046
大阪府大阪市中央区平野町4-1-2

発行人 田中雅人

企画・制作 熊走珠美

編集人 日下部行洋

編集 (株)平凡社

アートディレクション
& デザイン okamoto tsuyoshi +

校正 (株)アンデバンダン

印刷・製本 (株)東京印書館

お問い合わせ窓口 大阪ガスビジネスクリエイト(株)
TEL 06-6205-4650
FAX 06-6205-4759
CEL@ogbc.co.jp

Research Institute for Culture, Energy and Life
©2019 OSAKA GAS CO., LTD

※禁無断転載複製
※本誌掲載の寄稿文、インタビュー、レポートなどの内容は
必ずしも大阪ガスの見解を示すものではありません。

CELからのメッセージ

「よそ者」の受容度が、 日本の将来を左右する？

大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所
所長 田中雅人 Tanaka Masato

「よそ者の服」、「よその家」、「よそよそしい」……。 「よそ=余所・他所」とは「自分の属している家庭や団体以外のところ。自分とは関係のない所、人、物」のことで、この「よそ」という言葉を聞くと、ネガティブな印象を受ける方がおられるかもしれないが、これからの日本のまちづくりにとって、「よそ者」は地域と時間をつなぐ役割をもつ者として、その活躍が大いに期待されている。

「よそ者」が活躍する例として、シンガポールをご紹介したい。1965年に、マレーシアから追放される形で独立を余儀なくされた小国は、インドネシアなど近隣の列強から身を守ることに加えて、資源のない国土での発展をはかるため、関税なしの自由貿易の推進など、徹底した外国企業の受け入れをはかった。国土面積が東京都23区と大差はなく、人口が600万人弱にもかかわらず、世界競争力ランキングでは第1位[*]という地位を築くまでに成長した主因は、外国人・企業という「よそ者」の受容度の大きさだと思う。

日本も明治維新において、鎖国をやめ、西洋文化=「よそ者」の受け入れを積極的にはかったことにより、列強に名を連ねるようになった歴史がある。つまり、「よそ者」を受け入れる時、国や地域が大きく発展すると思う。

では、なぜ、「よそ者」を受け入れ、彼らが闊歩する時、発展するのか。「よそ者」は、余所の世界も知るため「ウチ」と「ソト」の両方の視点・観点を有しており思考がダイバーシティに富むこと、「ウチ」に存在するつまらぬ慣習などに縛られないこと、そしてハングリーさを持ち合わせていることがその理由なのだろう。

人口減少がいよいよ社会の大きな課題となる、これからの日本にとって、「よそ者」の受容度をどこまで引き上げられるか、また受け入れた「よそ者」と地元民がコラボレーションすることで、いかにハイレベルなパフォーマンスを発揮できるかが、この国の将来を左右する大きなファクターになるのではないだろうか。

* 世界経済フォーラム(WEF)2019年発表